

関係団体等との連携と協働による
福祉系大学生等を対象とした啓発イベント
「アディクション・オープンゼミナール2022」事業

～これからの福祉を担う大学生等が「依存症とその支援を正しく理解する」ことを共通認識とする
ために～の開催及び関係団体と協働した「より相談しやすい体制づくりへ向けた検討会」の実施

報 告 書

令和5（2023）年3月



公益社団法人 日本精神保健福祉士協会
Japanese Association of Mental Health Social Workers

報告書作成にあたって

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、新型コロナウイルス）との戦いは、2023年5月に感染症法上の位置づけが「5類」に移行する予定となり、ひとつの区切りを迎えようとしています。この約3年にわたる時間の経過のなかで、私たちの生活や価値観は大きく変わりました。人との接触や集うことが避けられ、その代替手段として通信手段が飛躍的に発展し、オンラインによる交流が想像できないくらい速度で人々の生活に浸透していききました。その結果、在宅ワークやオンラインを活用した学習など、人々が一同に介することなく、個人で社会生活を営むことができるようになりました。このように、新型コロナウイルスがもたらした影響は、個人の価値観に合わせた多様な生活様式が社会に受け入れられる契機となったと思います。

一方で、生活のなかで人とのつながりを実感することや、困りごとを抱えた際に人を頼ることが難しくなり、人々が孤独や孤立を感じやすい社会に陥っているともいえるのではないのでしょうか。依存症は「孤独の病」ともいわれています。新型コロナウイルスとの生活のなかで、依存症に関する課題は今まで以上に社会的に大きなものになっていると思われます。今後は依存症に関する基礎知識や対応方法について、専門職のみならず、すべての人々が学び、備えておくことが必要であると思います。

本協会では2016年度より、依存症関連問題に対応するためのチームを立ち上げ、2018年度より厚生労働省の依存症民間団体支援事業を継続して受託し、主に依存症対策を推進するソーシャルワーカーの人材育成及び普及啓発に関する事業に取り組んでまいりました。新型コロナウイルスが変異と感染拡大を繰り返し、さまざまな制約があるなか、今年度もオンライン等を活用し、教育プログラムの開発と研修の実施等の人材育成及び調査研究等の事業を実施しました。

具体的な取り組みとしては、今後の精神保健医療福祉を担うソーシャルワーカーの養成教育現場にある学生等が、「依存症とその支援を正しく理解する」ことを共通認識とするために、教育プログラムを企画・開発し、「アディクション・オープンゼミナール2022」を実施しました。あわせて、令和3年度厚労省依存症民間団体支援事業において作成した依存症支援啓発ポスターの効果測定及び波及効果を検討するために、関係団体等に対しアンケート調査による意見集約を行い、回答結果について課題分析等を行いました。

本協会では、アルコール健康障害対策基本法、薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部の執行猶予に関する法律、ギャンブル等依存症対策基本法等の法制度の施行に伴う依存症関連問題へ高まる関心を背景に、精神保健福祉士はもとより、すべての領域のソーシャルワーカーにとって依存症支援があたりまえのものとなることを目指し、今後も各種の事業及び活動を継続してまいります。

最後になりましたが、本事業の取り組みに際しまして、「アディクション・オープンゼミナール2022」の開催にご協力いただきました皆様、アンケート調査にご協力いただいた関係団体の皆様、令和4年度依存症民間団体支援事業の実施において、格別のご配慮を賜りました厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長様及び社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課依存症対策推進室の皆様、心からの御礼を申し上げます。

令和5(2023)年3月
公益社団法人日本精神保健福祉士協会

目 次

報告書作成にあたって (岡本秀行)

第1部 令和4年度依存症民間団体支援事業の概要

関係団体等との連携と協働による福祉系大学生等を対象とした啓発イベント
「アディクション・オープンゼミナール2022」事業
～これからの福祉を担う大学生等が「依存症とその支援を正しく理解
する」ことを共通認識とするために～の開催及び関係団体と協働した
「より相談しやすい体制づくりへ向けた検討会」の実施の概要

1. 本事業の目的と取り組み (小関清之) 3
2. 本事業の実施体制 (小関清之) 5
3. 本事業の概要 (小関清之) 6
4. 事業責任者等の選任 (小関清之) 9

第2部 福祉系大学生等を対象とした啓発イベント

「アディクション・オープンゼミナール2022」

1. ソーシャルワーカー物語〈導入編〉
「依存症を学ぶメリット～依存症支援スキルがチートすぎる件～」… (中島宗幸) 13
2. ソーシャルワーカー物語〈ケースワーク編〉
「依存症を抱えるクライアント～出会い、かわりからの学び～」… (菰口陽明) 18
3. ソーシャルワーカー物語〈グループワーク編〉
「依存症支援のおもしろさ～仲間との出会い～」..... (岡村真紀) 25
4. ソーシャルワーカー物語〈家族支援編〉
「依存症と家族～人が人らしく人と共に生きる暮らしを支えたい～」
..... (小関清之) 31
5. ソーシャルワーカー物語〈自助グループ編〉
「依存症者との私の一つの出会い～私の成長を支え続けてくれたもの～」
..... (関口暁雄) 40
6. 講義「アルコール依存症とソーシャルワーク
～教科書に出てこない依存症の知識と実際～」 (山本由紀) 46
7. 講師による「とっておきのもう一言」 (白田幸輝) 59
8. 参加大学生等とのグループワーク (柏木一恵) 62
9. 効果検証のアンケートから (中島宗幸) 63

第3部 関係団体等との連携と協働による 「より相談しやすい体制づくりへ向けた検討会」

令和3年度依存症民間団体支援事業において作成したポスターの
効果測定及び波及効果を検討するための関係団体等による意見集
約と課題分析…………… (白田幸輝) 73

第4部 おわりに

事業のまとめと提言…………… (関口暁雄) 83

第1部

令和4年度依存症民間団体支援事業の概要

関係団体等との連携と協働による福祉系大学生等を対象とした啓発イベント「アディクション・オープンゼミナール2022」事業 ～これからの福祉を担う大学生等が「依存症とその支援を正しく理解する」ことを共通認識とするために～の開催及び関係団体と協働した「より相談しやすい体制づくりへ向けた検討会」の実施の概要

1. 本事業の目的と取り組み

新型コロナウイルスがもたらす不安の只中であって、刹那的なアルコール飲料の長期的使用から依存症に陥る人たちは、一層増加している。さまざまな健康障害、暴力や交通事故などのアルコール関連問題も引き起こしている。薬物使用障害は司法に絡む深刻な苦痛を引き起こし、社会生活をおくるうえでの障害をもたらす。ギャンブル等依存症は、睡眠障害、自尊心の低下、経済的困難を招き、ひいては自死傾向のリスクを高めることが指摘されている。

さらに、社会経済的背景の脆弱な個人や家庭においては、より深刻な悪影響を経験するようになる。貧困課題、子どもを巻き込んだ虐待、いわゆる8050問題などにも関連する。人は生きづらさゆえに依存症に陥る。そして、依存症に陥ったがゆえの一層の生きづらさに人は苦しむ。

人は誰しも何かに依存する。むしろ、さまざまなものに依存しながら生きていて、その依存先が多いほど、1つへの依存度は低くなり、あたかも何にも依存していないかのように生きられる。だが、1つの依存症に振り回され、自分の意思ではコントロールできなくなった人たちに対して、途端に社会は寛容では無くなる。いわゆる自己責任論と相まって、依存症者とその家族を追い詰める偏見や差別が解消されてはいない。スティグマに阻まれ、本来必要な治療や回復のための支援につながらないトリートメントギャップを埋める取り組みは、いまだ充分とはいえない。

すでに、高等学校等においては、依存症を偏見や差別の対象とすべきではないことを伝える教育がなされている。一方、将来に精神保健福祉士及び社会福祉士の国家資格者としてソーシャルワーカーを目指す大学生等への養成教育場面では、それらについての指導が充分になされているとは言い難い。

彼らが、一般に流布する誤解や偏見を脱し、ソーシャルワーカーとして依存症支援に必要な知識や技術を修得すること、依存症になったが故の生きづらさを抱える人たちにソーシャルワーカーが実際どうかかわっているのかを知ること等の意義は、極めて大きい。

本協会は、厚生労働省「令和4年度依存症民間団体支援事業」(以下、事業)を活用し、社会福祉士・精神保健福祉士養成課程に学ぶ大学生等に向けた、オンラインによる独自の教育プログラムを構想した。

事業計画では、職能団体である本協会の「強み」を活かして、実際に、そのかわりを担っている現任ソーシャルワーカーの体験と知恵を持ち寄る企画を立案した。

おおよそ1年余、幾度も会合を重ね、さまざまな検討・工夫や準備・調整を積み上げた。現代の大学生等の関心呼び覚まし、意欲的な参加の動機付けを促すため「告知」についても、例年になく工夫を凝らした。惹きつける魅力溢れる動画を作成し発信。あわせて、ネットワークを駆使したチラシの配布も実施した。結果、募集開始早々に応募が殺到する

事態となり、設定した締め切り日前に定員を越える盛り上がりとなった。

2023（令和5）年2月25日（土）、東京会場を発信拠点に、全国各地の国公私立の社会福祉系（学部・学科を擁する）大学をはじめとする精神保健福祉士・社会福祉士の養成校に学ぶ全ての大学生等のうち、参加者枠に選ばれた大学生等に向けてオンライン発信する「アクション・オープンゼミナール2022『必見！ソーシャルワーカー物語ー学校では教えない依存症支援ー』」の開催を実現した。

さらに、録画した講義動画は、向後約1年間オンデマンド配信を続ける。演習グループワークの効果を上げるため設けた参加枠から漏れた大学生等をはじめ、より広い範囲の大学生等に対しても、その視聴の場を提供するためである。

あわせて、2021（令和3）年度事業において、ソーシャルワーカー関係4団体（以下、関係団体）に呼びかけ重ねて来た意見交換会の成果をかたちにした第1弾としての「ポスター」について、2022（令和4）年度事業では、この配布と掲示が、目的とした「一般国民・市民に掛かる普及啓発の広がり」に資するものとなったのか否かや「これから依存症及び関連問題にかかわろうとする新たなソーシャルワーク人材の発掘にもつながるものとなったのか否か」、その効果を検証するための調査を実施し、その結果について考察した。

2. 本事業の実施体制

1) 検討委員会の設置

本事業の目的に沿った取り組みを具体化するため、本協会の依存症及び関連問題対策委員会内に、本事業の実施に向けた企画・立案・準備を担う、検討委員会を設置した。

検討委員会は、全国各地の構成員のうち、依存症及び関連問題にかかわるソーシャルワーカーとして先駆的な経験や豊富な知見を有する者のなかから選抜し、その態勢を構築した。

2) 検討委員会の構成メンバー（敬称略・五十音順）

氏名	所属
岡村 真紀	高嶺病院（山口県）
柏木 一恵	浅香山病院（大阪府）
小関 清之	秋野病院（山形県）
菰口 陽明	国立病院機構 呉医療センター（広島県）
白田 幸輝	若宮病院（山形県）
中島 宗幸	堺市役所（大阪府）
山本 由紀	国際医療福祉大学（栃木県）

3) 検討委員会の取り組み

コロナ禍における特段の配慮が求められる医療・保健・福祉の機関にその身を置く委員が少なくないことから、会合は原則、月1回のZOOMによるオンラインミーティングとし、計7回行った。とはいえ、対面による協議が不可欠と判断した際の会合のみ、各地からの参集を求め、万全の感染対策を確保したうえで、計2回行った。並行して、このために構築したメーリングリストを活用した議論を積み重ねたが、そのやりとりしたメールは優に2,000件を越えるものとなっている。

検討委員による会議	主たる協議事項
第1回 2022年7月13日(水)オンライン	検討委員の候補について
第2回 2022年8月17日(水)オンライン	2022年度事業の基本方針について
第3回 2022年9月14日(水)オンライン	コンセプトと実施計画について
第4回 2022年10月20日(木)オンライン	ポスターに掛かる意見集約について
第5回 2022年11月10日(木)オンライン	委員によるプレゼンテーション
第6回 2022年11月27日(日)TKP東京駅カンファレンスセンター	講義動画撮影、告知動画及びチラシの作成
第7回 2022年12月26日(月)オンライン	演習を含む当日プログラムの検討
第8回 2023年2月15日(水)オンライン	申込状況及び当日にむけた最終調整
第9回 2023年2月25日(土)TKP東京駅カンファレンスセンター	報告書作成および2022年度事業の小括

3. 本事業の概要

1) アディクション・オープンゼミナール2022

「必見！ソーシャルワーカー物語－学校では教えない依存症支援－」

【周知の取り組み】

全国各地の国公立の社会福祉系(学部・学科を擁する)大学をはじめ精神保健福祉士・社会福祉士の養成校に学ぶ全ての大学生等を対象とし、その参加を呼びかけた。

教員や学校関係者からの「大学生に向けたさまざまな研修企画では、その参集について悲観的になる場面が多い」との意見等を踏まえ、大学生等にいかに関心を持ってもらうかについて工夫を凝らした。

若い委員からの斬新な発案をもとに、惹きつける魅力に溢れる「告知動画」を作成し、YouTube発信を行った。また、本協会の構成員でもある養成校教員に呼びかけ、チラシを活用した周知に協力していただいた。一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟に対しても、加盟校教員や大学生等への呼びかけ等の協力を要請した。

結果、大方の予想を裏切る結果がもたらされた。募集開始早々に、全国各地からの多くの応募が殺到し、設定した締め切り日前に定員を越える盛り上がりとなった。これら、告知動画、告知チラシ、教員らのネットワークによる周知等々の全てが、功を奏し、アディクション・オープンゼミナール2022への気運は高められた。

■ 告知動画 (YouTube)

<https://youtu.be/gky6lg602qw>



(視聴期限：2024年6月頃)



■ チラシ

公益社団法人日本精神保健福祉士協会 主催
厚生労働省「令和4年度依存症民間団体支援事業」(補助金事業)

必見！ソーシャルワーカー物語

学校では教えない依存症支援

学生対象
参加費：無料

アディクション・オープンゼミナール2022

◆Zoomによるオンライン開催◆
2023年2月25日(土)10:00~14:30
対象：ソーシャルワーカーを目指す学生/定員：50人(原則、先着順)
申込締切：2023年2月10日(金)

オープンゼミナールとは
演習でも実習でもない、自主的な新しい体験学習
レポートの題材に、実習や就活では強みとして活用しよう！

◆YouTubeによるオンデマンド配信(画面のみ)もあり◆
2023年2月28日(日) ※ 対象：どなたでも申込不要でご視聴いただけます

詳細はこちらをご覧ください

【アディクション・オープンゼミナール2022 ウェブサイト】
https://www.jamsw.or.jp/a/addiction_open_seminar/

【アクション・オープンゼミナール2022】

コロナ禍に鑑みて、東京会場を拠点に、各地に向けて発信するオンラインによるオープンゼミナールを開催した。参加大学生等に、依存症に関する知識の向上や誤解・偏見の解消が見られ、依存症関連問題の軽減に向けた社会資源の構築やサポートシステムの実現に寄与できるソーシャルワーク人材へと成長することにつながる研鑽となったとすれば嬉しい。それらを目途として、依存症になったが故の生きづらさを抱える人たちとその家族にソーシャルワーカーが実際どうかかわっているのかを伝える企画を立案し、実施した。

具体的には、職能団体の強みを活かして、構成員のうち実際に依存症にかかわっている現任者に「ソーシャルワーカー物語」を語る講師として登壇いただいた。参加大学生等に伝え、ともに語らい、ともに考える場面を設定した。こうした参加体験は、普段の大学等での学びの深化につながることはもとより、今後の就職の方向性を考えるうえでも意義があったものと思われる。

■ プログラム

時 間	内 容
10:00-11:30	開会挨拶・オリエンテーション 1. オンライン講義「ソーシャルワーカー物語」(約10分×5本) 〈導入編〉「依存症を学ぶメリット～依存症支援スキルがチートすぎる件～」 講師：中島 宗幸(堺市 精神保健課) 〈ケースワーク編〉「依存症を抱えるクライアント～出会い、かかわりからの学び～」 講師：菰口 陽明(独立行政法人国立病院機構 呉医療センター) 〈グループワーク編〉「依存症支援のおもしろさ～仲間との出会い～」 講師：岡村 真紀(医療法人信和会 高嶺病院) 〈家族支援編〉「依存症と家族～人が人らしく人と共に生きる暮らしを支えたい～」 講師：小関 清之(医療法人斗南会 秋野病院) 〈自助グループ編〉「依存症者との私の一つの出会い～私の成長を支え続けてくれたもの～」 講師：関口 暁雄(埼玉県済生会 鴻巣医療福祉センター) 2. オンライン講義「アルコール依存症とソーシャルワーク～教科書には出てこない依存症の知識と実際～」(33分) 講師：山本 由紀(国際医療福祉大学、遠藤嗜癮問題相談室)
11:30-12:30	休憩
12:30-13:20	講師らによる講義内容のまとめとディスカッション 「とっておきのもう一言」 座長：柏木 一恵(公益財団法人 浅香山病院)
13:20-14:30	参加大学生等とのグループワーク
14:30	閉会

この録画した講義動画は、向後約1年間オンデマンド配信を続ける。

演習グループワークの効果を上げるため設けた参加人数枠から漏れた大学生等をはじめ、より広い範囲の大学生等に対しても、その視聴による学びの場を提供するためである。

■ウェブサイト

https://www.jamhsw.or.jp/a/addiction_open_seminar/



2)厚生労働省「令和3年度依存症民間団体支援事業」に関係団体との協働により作成した依存症支援啓発ポスターの効果検証

かねてより関係団体による意見交換会を重ねてきた経過を踏まえる令和3年事業においては、連携と協働の成果をかたちにする第1弾として「ポスター」の作成と配布に至った。

令和4年度事業では、このポスターの掲示が、果たして一般国民・市民に掛かる普及啓発の広がりやこれから依存症及び関連問題にかかわろうとする新たなソーシャルワーカー人材の発掘にもつながるものとなったのか否か、その効果を検証するため、アンケート等による調査を実施し、課題の考察に取り組んだ。

まずは参画いただいた関係団体からアンケート回答というかたちでの意見や提案を寄せていただいた。加えて、本協会の全国の構成員からは、構成員メールマガジンからの呼びかけに応える意見等を集約することができた。そのうえでの課題について考察を加えた。

無論、こうした活動が、すぐさまの成果を上げることは困難である。しかし、臆せず、諦めず、怯まずに地道に積み上げて続けて行くことの意義は大きいと再認識している。

そしてこれらは、広く一般に向けた啓発であるのと同様並行して、従前から本協会が掲げている「あらゆる分野の全てのソーシャルワーカーに依存症支援をあたりまえに」とする目標達成への一里塚となったことにおいて疑いはない。

【意見等の聴取対象】

一般社団法人日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会
公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会
公益社団法人日本社会福祉士会
特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会
本協会構成員

4 . 事業責任者等の選任

本協会における今年度事業方針及び活動計画との整合性に鑑み、理事会から事業責任者及び副責任者を選任した。

加えて、事務局職員が事務的かつ実務的業務や経理を担当し、検討委員会との密なる連携に努めつつ、本事業の目的を達成するための諸般に取り組んだ。

役名	氏名	所属
事業責任者 (担当部長)	岡本 秀行	川口市保健所(埼玉県)
事業副責任者 (担当理事)	関口 暁雄	埼玉県済生会 鴻巣医療福祉センター (埼玉県)
事務責任者	坪松 真吾	日本精神保健福祉士協会(東京都)
事務担当者	小澤 一紘	日本精神保健福祉士協会(東京都)
経理担当者	原 浩子	日本精神保健福祉士協会(東京都)